

第3回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会 会議録

- 1 会議名 第3回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
- 2 日時 平成29年2月13日(月)午後1時半から午後3時
- 3 会場 東久留米市役所4階 庁議室
- 4 出席委員 石橋委員(副会長)、一木委員、伊藤委員、井上委員、大山委員、神谷委員、小松崎委員、白井委員、高室委員、田口委員、鶴岡委員(会長)、時任委員、増田委員、宮下委員、村上委員 以上15名
- 5 欠席委員 稲田委員、岡野委員 以上2名
- 6 事務局 小堀介護福祉課長、遠藤健康課長、傳保険年金課長、藤係長、大川主事、小高主事
- 7 傍聴人 1名
- 8 次第 第3回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会
 - (1) 開会
 - (2) 配布資料の確認
 - (3) 議題
 - 議題1 課題検討アンケート結果について
 - 議題2 在宅療養ガイドブックについて
 - 議題3 多職種研修の実施について
 - 議題4 在宅療養相談窓口の実績報告について
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 9 配布資料
 - 【資料1】東久留米市在宅療養ガイドブックについて
 - 【資料2】東久留米市在宅療養ガイドブック(仮)
 - 【資料3】多職種研修の内容について
 - 【資料4】平成28年度東久留米市在宅療養相談窓口・相談業務報告書
- 10 第3回 東久留米市在宅医療・介護連携推進協議会の開催
 - (1) 出欠席者等の確認
 - ・出席者15名、欠席者2名。定足数に達しており会議は成立
 - ・傍聴人 1名

(2) 議 題 (要点のみ筆記)

① 議題1 課題検討アンケート結果について

事務局より、引き続き新たに見出した課題について、協議会で共有していく旨を確認。

② 議題2 在宅療養ガイドブックについて

事務局より「【資料1】東久留米市在宅療養ガイドブックについて」及び「【資料2】東久留米市在宅療養ガイドブック(仮)」から抜粋し説明。

【会 長】 事務局作成のたたき台について、指摘や意見はあるか。

【委 員】 事業者ガイドブックを引用するという部分について問題は無いと考える。また、ガイドブックは初めての取り組みの為、発行されてから修正点が出てくることが想定される為、必要に応じて次年度修正していけばよい。また、エピソードの部分については文字が多い印象を受ける。イラスト等を入れたほうがわかりやすくなると思う。カラー印刷にするとイメージが変わると思うが、「市民が見やすい」という点を常に意識する必要がある。事務局に質問だが、ガイドブックを更新、改訂する頻度はどのくらいを想定しているか。次年度も継続して協定という形でガイドブックが作成される場合、サービスとして紹介されている事業所が、さらに有料広告に載せたいという時には、どういった案内がされるのか。また、完成したガイドブックはどこに置くことを想定しているかの三点を伺いたい。

【事務局】 まず、一点目については、今回印刷製本の協定を結んだ事業所とは毎年更新することを前提としているが、次年度の協議会において本年と同様の協定で作成するかを判断する必要がある。しかし、作成方法には拘らず、内容に関しては毎年更新していく必要があると認識している。二点目の有料広告については、協定締結事業所が営業を行っている為、サービスとして紹介される事業所への調整とは切り分けて考えていただきたい。また、三点目については3,500部を作成する予定。その上で、アンケートにご回答いただいた医療機関や事業所に送付し、受付や窓口等に数冊ずつお持ちいただき、市民の方に手渡ししていただくことを想定している。

【委 員】 24Pの「訪問介護とは」という部分について、支援を行う者が介護福祉士のみしか出来ないという印象が強く感じる構成になっている。また、広告のページについて配置を変更し、3Pと5Pが見開きになる様に変えたほう見やすくなる。冊子の構成として、エピソード部分を後半にし、サービスの特徴を前段で確認してからエピソードを読んでもらう方が、より効果的にサービスについての理解を得ても

らえると考える。

【委員】 目次について、掲載されているページ番号をふることで、効率的に目的のページが探せるため便利である。エピソードについては前半に来た方がよいと考える。症例の多いケースの為、読み手が自分の状況に置き換えて読んだ後に、どのようなサービスがあるのかを追って読めたほうが効果的である。また、ケアマネのページについて、市民が事業所を選択する際に参考となるような事業所の特徴や訪問可能エリア等を掲載できるとより活用されやすいと感じる。通所介護のページにお泊りのサービスを提供している目印などがあるとより良い。

【委員】 事業所の順番が五十音順とするか、住所順とするか冊子の中で統一する必要がある。

【委員】 広告掲載の箇所にはページを付番せずに作成すると読みやすくなるを考える。その上でさらに、広告のページと一目でわかる様に工夫した方がよい。また、ガイドブックをホームページに掲載する予定であれば、関係ホームページとリンクで紐づけることや、最新の情報が見られるように工夫するとよい。また、今後更新する予定があるという文言を入れたほうがよい。各事業所の特徴については、より具体的な情報を掲載することで、市民が利用する際により役立つものになる。

【委員】 冊子の中で職種の呼び方について統一されていない。事業所ごとの特徴も各事業所の強みを掲載するとよい。また、デイサービスとデイケアについて同一サービスに見えてしまうため表現を変えたほうがよい。

【委員】 ショートステイ、医療ショート等のお泊りサービスの情報も介護負担軽減につながるので載せるとよい。また、成年後見の制度について、一人暮らしの方や認知症の方の金銭管理ができるという部分の記載方法にも工夫が必要。

【委員】 3Pの在宅療養の図に入院から退院時のみではなく、在宅で医療ニーズが増加したケースなどもイメージしやすい図にするとよい。医師、薬剤師と歯科医師の掲載について、往診等を行う機関等のみを掲載するか、統一する必要がある。また、訪問看護ステーションと訪問リハビリは別のサービスの為、一体的に掲載せずそれぞれを別に掲載した方がわかりやすい。また、市民からすると通所介護とデイサービスが一緒のものと認識しづらい為、通所介護の後に括弧書きでデイサービスと表記するとわかりやすくなる。

【委員】 エピソード1については、在宅療養のガイドブックという性質から、歯科も訪問が可能という事を伝えるために、かかりつけ歯科医に受診したエピソードとするのではなく、訪問歯科診療を利用し、治療に当たったエピソードとし、訪問による歯科

診療を行っている歯科の一覧を掲載するとよい。

【委員】 訪問診療はかかりつけ医の先生が行っている事も多くある為、直接訪問診療を行っている先生に相談するよう見える現状の記載方法を変更し、まずはかかりつけの先生に相談するよう変更した方がよい。また、訪問看護と訪問リハビリについて分けて掲載しその上で、訪問看護については24時間365日行っている旨も記載すると、安心した在宅療養を行う際に有効な情報となる。エピソードは文字が多い印象なのでわかりやすくなるようイラストを入れる等の工夫する必要がある。

【委員】 精神病院の訪問看護とステーションの訪問看護とでは実施されているサービスの内容とで異なる場合がある為注意が必要。

【委員】 全体的にイラストを入れるともう少し見やすくなる。また、広告のページについては、無作為に入れるのではなく、テーマの区切りに入れる等工夫をするとより読みやすくなる。ページについては各職種のカテゴリー順に並べ、エピソードについては、「病気になったら」等のカテゴリーに分けて記載するとより見やすくなる。

【委員】 表紙の写真について、ダイヤモンド富士や落合川のカワセミなどを使用すると東久留米らしさがでると感じる。また、リストの順序としては、名前順より地域順にすることで市民が探しやすくなると思う。また、訪問歯科診療については個別のニーズに合わせて行っているところも多くある。

【委員】 タイトルについて「このまち」なのか「わがまち」なのか等の文言も工夫する必要がある。前書きについては、協議会で作成するのであれば会長に記載していただきたい。訪問看護と訪問リハビリについては、今後のリハビリ専門職に期待する役割が、在宅療養の場面のみならず、健康づくりの場面でも多く期待されている職種である為、分けて記載した方がよい。また、広告のページにはページ番号は付番しない方がよい。ホームヘルプやデイサービス、デイケアについては本文で括弧書きで表記するよう統一した方が読みやすくなる。住宅改修等のサービスは、「その他介護サービス」とし、成年後見制度等も併せて紹介するとよりわかりやすい冊子となる。また、栄養士、管理栄養士についても今後非常に大きな役割を担っていくことを期待されている職種であり、訪問栄養指導等も行われていることもあるので、本冊子を通じて紹介して、冊子全体でもサービスの紹介と併せて各職種のPRもしていくとより効果的なものとなる。発行部数については増刷することを希望するが、希望を言えば全戸配布を行いたい、せめて、在宅療養を希望する方にいきわたるような部数を設定する必要がある。

【会 長】 委員からの意見を参考に、より読みやすい冊子となる様に協議会以降も各委員と事務局で今後調整していくこととする。また、表紙については、富士山もしくはカワセミの写真についても検討し、タイトルについても「このまち」なのか「わがまち」なのか他の選択肢についても検討していく。ガイドブックについては以上

③ 議題3 多職種研修の実施について

多職種研修検討会に参加した委員の代表から「【資料3】多職種研修の内容について」を基に説明。

【委 員】 他職種研修のアンケート結果から多職種研修検討会で検討し、退院時に多職種が必要とする情報は何かという部分を考えるという事と、退院後、在宅で介護保険活用し安心して在宅生活を過ごすことのみを最終地点とするのではなく、卒業することに向けた介護保険のサービスを活用し元の暮らしに戻れるように支援する事を、支援に関わる職種で再認識しながら、実際にサービスを受ける利用者及びその家族が介護保険を受けられることに満足せず、そこからまた再起していくことを意識できるようなケアをしていくことを考える必要があるという意見があった。そのような視点から、退院から在宅に戻る際に必要な情報や介護保険からの卒業を意識したサービス担当者会議を意識した事例検討会議を実施していきたい。事例の候補はいくつかあるが、どれも退院時から在宅に戻る際に必要な情報は何かを考えられるような事例にしていく。

【会 長】 この件について、何か意見はあるか。

【委 員】 介護サービス事業所協議会が共同して、27,28年度にユマニチュードの勉強会、多職種で市内において協働研修会などが開催されたが、その研修会に参加した事では職種ごとに視点が異なると感じる意見が多くあり、そこを理解することで研修後の日頃のケアにすぐ活かせたという意見が多く聞こえた。本協議会の多職種研修も様々な視点が学べ、すぐに自分たちの業務に活かせる内容となっていると感じる為、効果的な研修であると感じる。

③ 議題4 在宅療養相談窓口の実績報告について

在宅療養相談窓口委員より「【資料4】平成28年度東久留米市在宅療養相談窓口・相談業務報告書」から抜粋し説明。

【委 員】 在宅療養相談窓口の活動内容としては、相談業務、情報収集・提供業務、普及啓発・多職種研修業務の3点が主にあげられる。その中で相談業務については、4月から12月まで総数69件月平均7.7件であった。周知活動については、関係機関に直接出向き、さらに会議等に参加する中で周知を行っていき、徐々に相談ケースが増加して

きた。相談者については約半数が70歳以上である。疾患別では悪性腫瘍のケースが多く、退院時の支援や病状悪化による在宅療養支援が主である。職種からはケアマネジャーからの相談が多く退院支援や訪問診療の調整等が主であり、入院時の病院に関する情報やかかりつけの医師の情報などの医療機関と介護職との橋渡し役となるような相談が多くあった。また、病院の相談員からは退院時の訪問看護の調整についても徐々に増えてきているが、今後は関係機関同士の橋渡し役のみならず、在宅療養をする市民からの相談先としての機能を強化していく。情報収集については、訪問診療についての情報を中心に集めたが、在宅療養ガイドブックにも活用していく。普及啓発については、市民向けのシンポジウムの開催を通じて、今後も在宅療養についての普及啓発を行っていく。在宅療養相談窓口として見出した地域の課題としては、地域包括支援センターを含めた行政機関との情報共有を含めた連携に課題がある点があげられる。また、すでにある様々な制度のどれにも当てはまらないと感じるケースも多くあり、そのような制度の狭間にいるようなケースに対する支援を今後より強化していく必要がある。そして、地域における単身高齢者が癌末期等になるまで、ぎりぎりまで支援を求めないケースなども多くみられ、在宅療養相談窓口としてどういった関わり方ができ、他の機関と連携して支援していくか今後検討してまいりたい。

(3) その他 特になし。

(4) 閉会

【会 長】 それでは、これを以って、第3回東久留米市在宅医療・介護連携協議会を終了させていただく。次回については、4月の開催が予定されている。具体的な日程等については、近くなつたところで連絡があると思う。委員各位におかれては、今後の会議開催、進行に特段の配慮をいただきたい。

閉会午後3時